

学校だより

しらかわ



飯豊町立添川小学校

2020. 8. 25

いきいき なかよく ほこりを持って 第8号

## みんな元気に2学期スタート

18日間の夏休みが終わり、8月24日から第2学期がスタートしました。子どもたちが元気に学校に戻ってきました。2学期は86日。最も長い学期です。

この夏休みは、全国的な猛暑と新型コロナウイルス感染症拡大のため心配な毎日でしたが、幸い、子どもたちが元気に楽しい休みを過ごすことができたと聞いて、ほっとしています。

感染症拡大としばらくは暑い日が続く予報ですので、十分に中止しながら教育活動を進めていきたいと思えます。

昨日、二学期始業式で校長から子どもたちに次のことをがんばろうと話しました。

- ① 健康を守る
- ② 自分事～気づき・考え・行動する～
- ③ 感謝の気持ちを忘れない

このような状況下だからこそ、本校の「いなほの子ども」のキーワード「自分事～気づき・考え・行動する～」が大切なのだと思います。もちろん、子どもにとっても職員にとっても。「チーム添川小」の結束力を一層高め、取り組んでまいります。2学期もよろしくお願ひいたします。

## 2学期の主な行事について

2学期の主な行事をお知らせいたします。ご協力をいただく場面も増えてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。(まだ変更の可能性ありますこと、ご了承ください。)

- 9月：保護者面談(1～4日)、運動発表会(11日、予備日14日)、親子早朝作業(26日)  
町陸上大会(24日、予備日25日)、創立記念式(30日)
- 10月：一日学校開放日・持久走大会・学校保健委員会(3日、振替休業日は5日)  
4年生社会科見学(9日、山形方面)、学校林活動(12日)  
いなほ学習発表会(24日、振替休業日は26日)、里芋収穫(28日)  
就学時健康診断(29日)
- 11月：収穫祭(2日)、めざみの里音楽祭(中止)、学習強調旬間(9～27日)  
修学旅行(18～19日、変更の可能性あり)、読書週間(30～12/13日)
- 12月：保護者面談(未定)、清掃強調旬間(21～25日)  
2学期終業式・通知表配付(25日)

【ご紹介】 遠藤 いち 先生 が、令和2年度学習指導員(非常勤)として8月24日(月)より着任されました。本地区にお住まいの先生です。どうぞよろしくお願ひいたします。

<一学期終業式の児童代表の発表より>

コロナにまけなかったぞ

二年 えんどう ゆあ

春休みが終わり、二年生になったばかりで、また休みになってしまった四月。やっと学校がはじまって、みんなと会えてうれしかったです。五月から、ちゃんとどう校できて、べんきょうしたり、体いくをしたり、みんなとあそんだりすることは、すごくたのしかったです。

そして、一学き、ぼくは、二つのことをがんばりました。

一つ目は、さんすうのひっさんです。コロナで学校が休みのあいだ、二年生のべんきょうをしていたので、じしんをもって、とりくめました。くり上がり、くり下がりも、お金でも、できます。ぼくはいつも、自分の考えをはっぴょうしました。そして、生かつのじかんのザリガニつりは、たのしかったです。するめをつけたつりざおをつくったけど、なかなかつれないのでそっこうにはいりました。ながぐつがびしょびしょにぬれながら、つかまえたザリガニは、二年生のなかまになっています。

二つ目は、かかりのしごとをがんばりました。ぼくはれんらくがかりです。体いくの内ようを聞いたり、手がみをとりにいったりしました。まい日大へんだったけど、たのしいしごとでした。

ざんねんだったことは、プールじゅぎょうがなかったことです。ぼくは、きょ年の水えいはっぴょう会で、二十五メートルおよげなかったので、二年生で白ぼうしになるぞと目ひょうをもっていました。プールじゅぎょうはないけど、スイミングでがんばりたいです。

一学きはマスクをしてべんきょうしたり、友だちと話しあいをしたりすることができなくて、さみしいところもあったけど、みんな元気にすごせてよかったです。

やっぱり、みんなとべんきょうするのは、たのしいです。

→ ゆあ君の一学期のがんばり、コロナに負けない気持ち、残念だったことも含めて、ゆあ君の思いが伝わる素晴らしい作文で、発表も実に堂々としていました。

<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために（その4）

## 「自己肯定感」「自己有用感」について

諸富祥彦氏は、著作の中で次のようにいいます。

「すべての問題行動の背景にあるのは、自尊感情の傷つき、自己肯定感の低下である。『どうせ私は』『どうせ僕は』という心のつぶやきである。」

「自己肯定感を育てる最大のポイントは、『私はこのクラスで必要とされている』『私はこのクラスで役に立つことができている』という感覚、つまり自己有用感を育てていくことである。」

もちろん、教師向けの著作の言葉ですから、学校での場合について述べています。家庭での場合は、「このクラスで」を「この家で」とか「おとうさん・おかあさんに」と読み替えます。

私は長年、教師をやっていて、「自己肯定感」「自己有用感」の低い子どもが思った以上に多いことを痛感しています。子どもたちの問題行動の根本が、そこにつながるものがあまりにも多いのです。

佐藤幸司氏は、著作の中で次のようにいいます。

「子どもを勇気づける“とっておきの言葉”があります。それは、『あなたなら、大丈夫。』という言葉です。悩みごとを抱えた子がいたら、『〇〇さんなら、大丈夫。必ず乗り越えられるよ。』と、静かに真剣に話してください。（中略）子どもは、この言葉を聞いて、「この大人（教師）は、自分のことを信じてくれている。」と感じます。そして、この言葉に勇気づけられて、次の目標に向かって一歩前に進んでいけるようになります。」

子どもに対して、「あなたのことが必要なんだ」というメッセージを繰り返し繰り返し伝え続けること、たとえ子どもに裏切られても裏切られても粘り強く伝え続けること。それが子どもの心を育てます。

文献：『教師が使えるカウンセリングテクニク80』、諸富祥彦著、図書文化社

『クラスが素直に動き出す プロの教師の子ども心のつかみ方』、佐藤幸司著、学陽書房